

心臓血管外科（第二外科）

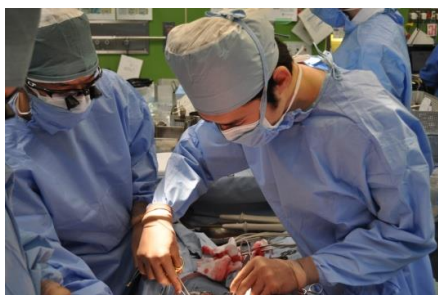
プログラムの概要

<http://www.med.yamanashi.ac.jp/clinical/surg02/>

1・2年目の選択必修科、または自由選択科として、1～数ヶ月間の研修を行います。外科を目指す医師のみならず、他の診療科を志す医師に対しても日常診療で遭遇する外科的処置を学ぶ機会を提供します。新生児から高齢者までの様々な疾患に接する機会があることから、プライマリ・ケアや全身管理を学ぶ機会としても役立ちます。個々の医師のニーズにあった柔軟なプログラムであり、多くの研修医の皆さんが選択されることを期待しています。



開胸術で助手をつとめる研修医



血管縫合する
後期研修医



ブタ心臓を用いた冠動脈バイパス手術や人工弁置換術の指導

アピールポイント

現在の外科は細分化されており、「心臓血管外科専門医」「呼吸器外科専門医」「小児外科専門医」「消化器外科専門医」などの専門医制度があります。これらの資格を取得するためには、まず外科領域全般にわたる臨床経験を積み、「外科専門医」資格を取得しておく必要があります。従って、将来心臓血管外科を目指す医師に本プログラムを推奨するのはもちろんですが、初期研修期間中に外科専門医取得のための心臓血管外科領域研修を終えておくことができますので、全ての領域の外科を志す医師にとって非常に役立つことになります。その後の後期研修プログラムに速やかに移行することが可能となり、外科医としての第一歩を踏み出すのに適したプログラムです。

医療は多くの診療科の協力のもとに行われており、幅広い知識を有機的に統合して、活用していかなければなりません。このプログラムでは、他の診療科との合同検討会などに参加する機会も設けており、多角的な視点から診療を行うことができる医師を養成するように努めています。従って、外科以外を目指している医師にとっても、単に外科の基本手技や全身管理法を習得する機会にとどまらず、将来の臨床で治療方針を決める場面において必ず役立つ研修になると思います。

また同様に、進路が決まっていない医師にとっても有意義なプログラムです。

心臓血管外科では、先天性心疾患、後天性心疾患、大血管疾患、末梢血管疾患、静脈・リンパ系の疾患など多岐にわたる疾患を扱います。特に最近では、ハイブリット手術室で大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術（TEVAR、EVAR）、経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI）経皮的卵円孔開存（PFO）閉鎖術、経皮的僧帽弁クリップ術 MitraClipが行われています。しかし、これら全ての研修が可能な医療機関は多くありません。当科ではこれらを網羅しており、幅広く心臓血管外科を学ぶ機会を提供しています。また、本人の希望があれば、上記の中で興味のある症例を重点的に学ぶことができるよう配慮いたします。

外科学の進歩は、単に病巣の切除だけではなく、機能を回復させる修復や再生といった様々な面を生みだしてきました。また医用工学との連携も不可欠となっています。このプログラムを通して外科のもつ新たな可能性を知っていただきたいと思います。

具体的な研修内容

心臓血管外科の診療チームに配属され、正式な主治医の一員として手術症例を受け持ち、診断・治療のための検査、術前管理、手術手技、術後管理の方法などを実践的に学びます。一定期間以上の研修を行って基本的な手技を習得できた場合には、大伏在静脈グラフトの採取、下肢静脈瘤手術、急性動脈閉塞に対する血栓除去術などの比較的軽症例で、執刀の機会を得られることがあります。また、研修期間中の学会等への参加も推奨し責任をもって指導しています。